実態調査

鹿児島県の高齢透析患者介護関連実態調査報告
――2016年3月現在――

上山達典[*1,4]　萩原隆二[*2,4]　四枝晧二[*3,4]
＊1 上山病院　＊2 高田病院　＊3 四枝内科　＊4 鹿児島県透析医会

key words：透析，介護保険，高齢化，地域包括ケアシステム

要　旨

鹿児島県透析医会会員が所属する全56施設の65歳以上の透析患者を対象として調査を行った．29施設の調査への参加があり，集計数は1,296名であった．

要介護認定率は鹿児島県全体の20.2%に対して30.6%と高く，前期高齢者と後期高齢者に分けて比較しても高率であった．要介護認定率は年齢が高くなるほど高率となり，透析導入原因疾患によって差がみられた．また，日常生活に支障のある合併症で，「視力障害」「四肢麻痺」「歩行障害」「下肢切断」「認知症」がある患者についても調べると，5項目いずれでも要介護認定率は比較的高く，「視力障害」の43.4%がもっとも低かった．世帯類別では，長期入院と施設入居者を別にして，「独居」「65歳未満と同居」「高齢者のみ」の順で認定率が高かった．介護サービス利用は，通所サービスが30.5%，訪問サービスが23.4%であった．訪問サービスの利用率は世帯類別でばらつきがあり，「独居」の利用率が43.5%と著明に高かった．全体の15.1%である独居世帯では，訪問によるサービスのニーズがあり，また，独力通院は加齢とともに困難となり，施設送迎の利用率が増す傾向にあった．

これらのことから，通院介助，生活支援の必要性が高くなる様子が窺えた．性別によっては透析導入原因疾患の割合や，要介護認定率，独力通院の項目などで明らかな差があり，男女の特徴的な違いがみられた．調査参加機関の所在地を大きく3地域に分け比較すると，平均透析歴と透析導入原因疾患で，地域差がみられた．高齢患者の増加，家族構成の変化など，「地域包括ケアシステム」の適切な構築が必要であることが窺えた．

はじめに

日本国民の高齢化は急速に進み，平成37年には団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題が控えており，透析患者を取り巻く環境も刻々と変化している．慢性透析患者の人数は年々増加しており，日本透析医学会発刊の「わが国の慢性透析療法の現況」[1]によれば，2005年に257,765人であったのが2014年末には320,448人に達している．

脳梗塞などの合併症を持つ患者が増えてきていることもあり，ADL等の低下をきたした高齢患者も増加していることから，医療者側の負担ならびに患者側の負担も増加している．

また，透析患者のみならず，高齢者の生活環境は，インフォーマルな支援を受けづらい状況から，今後発展させる必要のある「地域包括ケアシステム」の重要性を裏付けるものとなっており，高齢透析患者にとっ

Current status of elderly hemodialysis patients requiring nursing-care service in Kagoshima prefecture
Ueyama Hospital
Satonori Ueyama
Takada Hospital
Ryuji Hagihara
Yotsueda internal medicine
Koji Yotsueda

ては通院等にかかる様々な労力の「振り分け」等も必要となってくると考えられる．

今回は，透析患者の急速な高齢化による要介護認定率や介護サービスの利用状況など，「福岡県における高齢透析患者の介護実態調査報告」[2]に倣い，鹿児島県透析医会会員施設にかかっている高齢透析患者の実態を調査した．この調査から，高齢透析患者の介護等の実態を把握し，より良い透析医療を形作る参考としたい．

1　対象および方法

1-1　調査対象

鹿児島県透析医会会員医療機関 56 施設のうち，29 施設から調査参加があった（表 1, 2）．

鹿児島県透析医会会員医療機関における平成 28 年 3 月 31 日現在で満 65 歳以上，かつ透析導入済みの腹膜透析を含む透析患者を対象とした（福岡県の調査では，導入後 100 日以上が経過していることを条件とし

表 1　調査参加機関一覧（鹿児島県透析医会会員機関）

	医療機関名	住　所
1	社会医療法人聖医会　サザン・リージョン病院	枕崎市
2	医療法人　宮内クリニック	南さつま市
3	医療法人神護庵　じんごあん整形外科内科クリニック	日置市
4	医療法人藤井クリニック	いちき串木野市
5	特定医療法人昴和会　内山病院	阿久根市
6	医療法人和翔会　小峰内科	さつま町
7	医療法人實信会　まきのせ泌尿器科	いちき串木野市
8	医療法人　森田内科医院	薩摩川内市
9	医療法人　尾田内科胃腸科	姶良市
10	医療法人真和会　川原腎・泌尿器科クリニック	姶良市
11	鹿児島医療生活協同組合　国分生協病院	霧島市
12	医療法人健秀会　たまいクリニック	霧島市
13	医療法人水田会　加治木中央クリニック	姶良市
14	医療法人柏葉会　水間病院	伊佐市
15	医療法人拓和会　山下わたる内科	姶良市
16	医療法人青仁会　池田病院	鹿屋市
17	医療法人参篤会　高原病院	曽於市
18	医療法人 SAKURA　志布志中央クリニック	志布志市
19	医療法人仁鼎会　前田内科クリニック	鹿児島市
20	公益財団法人慈愛会　今村病院分院	鹿児島市
21	今村泌尿器科	鹿児島市
22	医療法人裕聖会　うるた内科	鹿児島市
23	鹿児島医療生活協同組合　鹿児島生協病院　谷山生協クリニック	鹿児島市
24	社会福祉法人恩賜財団　済生会鹿児島病院	鹿児島市
25	医療法人天陽会　中央病院	鹿児島市
26	医療法人愛樹会　外山内科クリニック	鹿児島市
27	医療法人光樹会　四枝内科	鹿児島市
28	医療法人玉昌会　高田病院	鹿児島市
29	医療法人腎愛会　上山病院　うえやま腎クリニック	鹿児島市

表 2　調査参加施設数

地　域	施設数
鹿児島	12
南　薩	2
北　薩	5
姶良・伊佐	7
大　隅	3
熊　毛	0
大　島	0
合　計	29

表 3　年齢別対象者数

年　齢	男　性（人）	女　性（人）	合　計（人）	うち HDF 実施中（人）	うち腹膜透析（HD 併用含む）（人）
65～70 未満	240	112	352（ 27.2）	40	3
70～75 未満	174	112	286（ 22.1）	32	5
75～80 未満	152	105	257（ 19.8）	16	5
80～85 未満	115	104	219（ 16.9）	13	4
85～90 未満	54	83	137（ 10.6）	9	4
90 以上	16	29	45（ 3.5）	2	3
合　計	751	545	1,296（100.0）	112	24

（　）内の数字は対象者総数に占める割合（%）.

ていたが，この調査では，導入まで慢性腎臓病で加療されていたことなどをふまえ，透析導入直後の患者も対象とした）.

調査対象となった 65 歳以上の高齢透析患者で，回収された記入用紙の対象者総数は 1,296 名であった（男性 751 名，女性 545 名）．対象者の約 1.8% にあたる 24 名の腹膜透析患者を含む（うち 6 名は血液透析と併用）.

対象者総数を 100% とした場合，65 歳以上 70 歳未満の割合が 27.2%（352 名），70 歳以上 75 歳未満が 22.1%（286 名），75 歳以上 80 歳未満が 19.8%（257 名），80 歳以上 85 歳未満が 16.9%（219 名），85 歳以上 90 歳未満が 10.6%（137 名），90 歳以上が 3.5%（45 名）となっており，最高齢が 97 歳であった（表 3）.

1-2　調査方法

今回の調査に使用した記入用紙とその記入例を図 1 に示す．鹿児島県透析医会会員医療機関 56 施設に，記入用紙と記入要領を送付のうえ，施設ごとに各項目を記入してもらい，メールでのデータ返信または，FAX による記入用紙返信で記入用紙を回収した.

調査項目は性別，入院の有無，年齢，透析歴，透析導入原因疾患，日常生活に支障のある合併症，要介護認定申請の有無，要介護度，利用サービス，居住・生

医療機関名　○○病院　　所在市町村　鹿児島市　　平成　28 年　3 月　31 日　現在

	患者番号	今だけ短期入院中	長期で自院に入院療養中	今回の調査時の透析歴 年	今回の調査時の透析歴 月	今回の調査時の年齢	性別 男	性別 女	透析導入原因 糖尿病性腎症	慢性糸球体腎炎	腎硬化症	その他	日常生活に支障となる合併症 複数可 視力障害	四肢麻痺	歩行障害	下肢切断	認知症	介護申請 申請していない	要介護度 要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	在宅サービス利用状況（介護申請済みの方のみ（重複可）） 申請済みだが利用は無	訪問サービス	通所サービス	その他（福祉用具貸与・施設サービス）	居住・生活環境 自宅等 独居	高齢者のみ世帯	65歳未満と同居	介護関連施設 特別養護老人ホーム 老人保健施設	その他施設	主な通院方法 独力通院可能	隣接施設を介助で移動	主な送迎一つ 家族送迎	施設送迎	介護タクシー	透析法HD無印HDF1PD2併用3
例	33			4	6	75	1		1											1							1		1		1							1		
1	A1			9	1	88		1				1									1							1		1		1								1	
2	B2			9	2	69	1					1						1													1			1						
3	A3			10	2	74		1		1											1							1		1						1			
4	A4			2	7	72	1		1						1			1													1			1						
5	B5			8	1	80	1		1															1				1	1	1									1	
6	A6			5	0	69	1		1									1												1				1						
7	B7			4	0	89		1	1									1												1				1						
8	A8			6	7	77	1		1									1																1						
9																																								
10																																								
11																																								
12																																								
13																																								
14																																								
15																																								
16																																								
17																																								
18																																								
19																																								
20																																								
21																																								
22																																								

施設・患者記号と年齢以外は、該当する欄に「数字の1」をつけてください。　　調査票様式　鹿透医介−1

図 1　記入用紙と記入例

活環境，主な通院方法，透析加療方法に関して，択一，項目によっては複数回答してもらう形で行った．各医療施設では対象となる患者を特定できるが，他医療機関・施設には個人情報や施設情報が伝わらないように集計した．

退院の目処が立っていない長期入院の患者については，居住・生活環境，主な通院方法等については調査項目とせず，短期入院中の患者については，通院方法は調査項目としなかった．

2　結　果

2-1　透析導入原因疾患と日常生活に支障となる合併症

「透析導入原因疾患」は，「糖尿病性腎症」が最も多く（表 4-1），全体の約 4 割で透析導入原因となっていた．男女比較でも男性 43.7%，女性 33.8% と高く，ともに透析導入原因で最も多かった．また，要介護認定者 397 名のうち，174 名（43.8%）が「糖尿病性腎症」から透析導入となっていた（表 4-2）．「慢性糸球体腎炎」をみると，全体の約 3 割で透析導入原因となっているが，割合に男女差があり，男性の場合は，「糖尿病性腎症」が明らかに多いが，女性は，両疾患の差が少なかった．要介護認定者 397 名のうち，84 名（21.1%）が，慢性糸球体腎炎から透析導入となっていた．「腎硬化症」から透析導入となった患者 126 名のうち，55 名（43.7%）が要介護認定者であり，全認定者 397 名の 13.8% だった．透析導入原因疾患ごとの平均透析歴にも差があり，慢性糸球体腎炎によって透析導入となった患者の平均透析歴は 12 年程度と他の疾患と大きく差が出ていた．

「日常生活に支障となる合併症」では，歩行障害のある患者が 322 名と最も多く，認知症，視力障害と続いた（表 5-1）．各合併症を透析導入疾患別でみると，どの合併症も「糖尿病性腎症」による透析導入の患者の割合が高かった．要介護認定率はいずれの合併症でも高率で，「視力障害」の患者の要介護認定率が 43.3 % と最も低かった（表 5-2）．

表 4-1　透析導入原因疾患別患者数および要介護認定者数

	糖尿病性腎症	慢性糸球体腎炎	腎硬化症	その他	合　計
男性					
患者数	328 (43.7) †1	190 (25.3)	78 (10.4)	155 (20.6)	751 (100.0)
平均透析歴	6 年 5 カ月	11 年 10 カ月	7 年 1 カ月	8 年 5 カ月	—
要介護認定者数	88 (26.8) †2	28 (14.7)	23 (29.5)	36 (23.2)	175
女性					
患者数	184 (33.8) †1	182 (33.4)	48 (8.8)	131 (24.0)	545 (100.0)
平均透析歴	7 年 9 カ月	12 年 0 カ月	7 年 1 カ月	8 年 9 カ月	—
要介護認定者数	86 (46.7) †2	56 (30.8)	32 (66.7)	48 (36.6)	222
総数					
患者数	512 (39.5) †1	372 (28.7)	126 (9.7)	286 (22.1)	1,296 (100.0)
平均透析歴	6 年 11 カ月	11 年 11 カ月	7 年 1 カ月	8 年 7 カ月	—
要介護認定者数	174 (34.0) †2	84 (22.6)	55 (43.7)	84 (29.4)	397

†1　夫々の患者数に対する比率（%）
†2　夫々の原因疾患患者数に対する比率（%）

表 4-2　透析導入原因疾患別にみた要介護認定者数

	糖尿病性腎症	慢性糸球体腎炎	腎硬化症	その他	合　計
要介護認定者数	174	84	55	84	397
比率（%）	43.8	21.2	13.9	21.2	100.0

表 5-1　日常生活に支障のある合併症（透析導入疾患別）

	糖尿病性腎症	慢性糸球体腎炎	腎硬化症	その他	合　計
男性					
視力障害	47 (68.1) †1	13 (18.8)	3 (4.3)	6 (8.7)	69 (9.2) †2
四肢麻痺	14 (60.9)	0 (0.0)	5 (21.7)	4 (17.4)	23 (3.1)
歩行障害	80 (52.6)	24 (15.8)	18 (11.8)	30 (19.7)	152 (20.2)
下肢切断	12 (75.0)	1 (6.3)	0 (0.0)	3 (18.8)	16 (2.1)
認知症	41 (53.9)	11 (14.5)	12 (15.8)	12 (15.8)	76 (10.1)
女性					
視力障害	36 (67.9)	12 (22.6)	1 (1.9)	4 (7.5)	53 (9.7)
四肢麻痺	7 (33.3)	2 (9.5)	6 (28.6)	6 (28.6)	21 (3.9)
歩行障害	66 (38.8)	47 (27.6)	23 (13.5)	34 (20.0)	170 (31.2)
下肢切断	4 (80.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (0.9)
認知症	33 (45.8)	16 (22.2)	12 (16.7)	11 (15.3)	72 (13.2)
総数					
視力障害	83 (68.0)	25 (20.5)	4 (3.3)	10 (8.2)	122 (9.4)
四肢麻痺	21 (47.7)	2 (4.5)	11 (25.0)	10 (22.7)	44 (3.4)
歩行障害	146 (45.3)	71 (22.1)	41 (12.7)	64 (19.9)	322 (24.8)
下肢切断	16 (76.2)	2 (9.5)	1 (4.8)	2 (9.5)	21 (1.6)
認知症	74 (50.0)	27 (18.2)	24 (16.2)	23 (15.5)	148 (11.4)

†1　夫々の合併症者数に対する比率（%）
†2　男性患者数・女性患者数・総数に対する比率（%）

表 5-2　合併症と介護認定

	視力障害	四肢麻痺	歩行障害	下肢切断	認知症
患者数	122	44	322	21	148
うち介護認定者数	53	25	195	16	101
介護認定比率（%）	43.4	56.8	60.6	76.2	68.2

2-2　要介護認定率

（1）　年齢階層別の認定率および要介護度

当調査における 65 歳以上の要介護認定率（表 6-1）は 1,296 名中 397 名認定済で 30.6%．前期高齢者は 638 名中 104 名認定済で 16.3%．後期高齢者は 658 名中 293 名認定済で 44.5% であった．65 歳以上の 5 歳階級別認定率では（表 6-2），高齢になるほど，認定率が高くなるという結果であった．全国・鹿児島県・鹿児島市（表 7）の高齢透析患者と比較すると，65 歳以上，前期高齢者，後期高齢者いずれにしても高齢透析患者のほうが認定率は高かった．

当調査の高齢透析患者の要介護度は（表 6-1），要支援 1：25 名（6.3%），要支援 2：97 名（24.9%），要介護 1：76 名（18.9%），要介護 2：84 名（20.9%），要介護 3：47 名（11.6%），要介護 4：40 名（10.1%），要介護 5：28 名（7.1%）であった．全国や鹿児島県，鹿児島市水準の調査では比較的均等に分かれていたが，高齢透析患者の場合，要支援 2～要介護 2 までのほうが多く，要介護 3 以上の重度者は，全国や自治体統計と相似した比率であった．全国 65 歳以上，鹿児島県 65 歳以上，当調査高齢透析患者を比較するグラフを図 2 に示すと，「要支援 1」と「要支援 2」で大きな違

表 6-1　当調査における要介護認定率および介護度（前・後期高齢者別）

	人数（人）	認定者数（人）	介護度						
			要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
前期高齢者	638	104 (16.3) †1	7 (6.7) †2	25 (26.0)	26 (24.0)	18 (16.3)	11 (10.6)	8 (7.7)	9 (8.7)
後期高齢者	658	293 (44.5)	18 (6.1)	72 (24.6)	50 (17.1)	66 (22.5)	36 (11.9)	32 (10.9)	19 (6.5)
合　計	1,296	397 (30.6)	25 (6.3)	97 (24.9)	76 (18.9)	84 (20.9)	47 (11.6)	40 (10.1)	28 (7.1)

†1　人数に対する比率（%）
†2　認定者数に対する比率（%）

表 6-2　当調査における要介護認定率および介護度（年齢別）

	人数（人）	認定者数（人）	介護度						
			要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
65～70 未満	352	41 (11.6) †1	2 (4.9) †2	8 (19.5)	12 (29.3)	9 (22.0)	3 (7.3)	5 (12.2)	2 (4.9)
70～75 未満	286	63 (22.0)	5 (7.9)	17 (27.0)	14 (22.2)	9 (14.3)	8 (12.7)	3 (4.8)	7 (11.1)
75～80 未満	257	69 (26.8)	5 (7.2)	14 (20.3)	15 (21.7)	16 (23.2)	8 (11.6)	7 (10.1)	4 (5.8)
80～85 未満	219	103 (47.0)	8 (7.8)	28 (27.2)	20 (19.4)	20 (19.4)	12 (11.7)	10 (9.7)	5 (4.9)
85～90 未満	137	89 (65.0)	5 (5.6)	20 (22.5)	11 (12.4)	22 (24.7)	12 (13.5)	10 (11.2)	9 (10.1)
90～95 未満	38	26 (68.4)	0 (0.0)	9 (34.6)	4 (15.4)	5 (19.2)	3 (11.5)	4 (15.4)	1 (3.8)
95～99 未満	7	6 (85.7)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	3 (50.0)	1 (16.7)	1 (16.7)	0 (0.0)

†1　人数に対する比率（%）
†2　認定者数に対する比率（%）

表 7　全国・鹿児島県・鹿児島市における要介護認定率および介護度（平成 28 年 3 月末（暫定））

	人数（人）	認定者数（人）	介護度						
			要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
65 歳以上									
全国	33,815,848	6,068,408 (17.9) †1	877,055 (14.5) †2	839,069 (13.8)	1,197,558 (19.7)	1,051,444 (17.3)	791,189 (13.0)	728,175 (12.0)	583,918 (9.6)
鹿児島県	487,384	98,491 (20.2)	13,640 (13.8)	13,714 (13.9)	20,028 (20.3)	14,646 (14.9)	12,451 (12.6)	12,906 (13.1)	11,149 (11.3)
鹿児島市	149,058	30,363 (20.4)	4,328 (14.3)	5,150 (17.0)	6,637 (21.9)	4,102 (13.5)	3,510 (11.6)	3,253 (10.7)	3,383 (11.1)
前期高齢者									
全国	17,448,805	755,909 (4.3)	125,741 (16.6)	120,007 (15.9)	141,004 (18.7)	134,119 (17.7)	89,412 (11.8)	76,047 (10.1)	69,579 (9.2)
鹿児島県	221,545	8,801 (4.0)	1,359 (15.4)	1,370 (15.6)	1,822 (20.7)	1,384 (15.7)	1,020 (11.6)	948 (10.8)	898 (10.2)
鹿児島市	75,520	3,420 (4.5)	535 (15.6)	602 (17.6)	774 (22.6)	488 (14.3)	370 (10.8)	309 (9.0)	342 (10.0)
後期高齢者									
全国	16,367,043	5,312,499 (32.5)	751,314 (14.1)	719,062 (13.5)	1,056,554 (19.9)	917,325 (17.3)	701,777 (13.2)	652,128 (12.3)	514,339 (9.7)
鹿児島県	266,281	89,733 (33.7)	12,281 (13.7)	12,344 (13.8)	18,206 (20.3)	13,262 (14.8)	11,431 (12.7)	11,958 (13.3)	10,251 (11.4)
鹿児島市	73,538	26,943 (36.6)	3,793 (14.1)	4,548 (16.9)	5,863 (21.8)	3,614 (13.4)	3,140 (11.7)	2,944 (10.9)	3,041 (11.3)

†1　人数に対する比率（%）
†2　認定者数に対する比率（%）

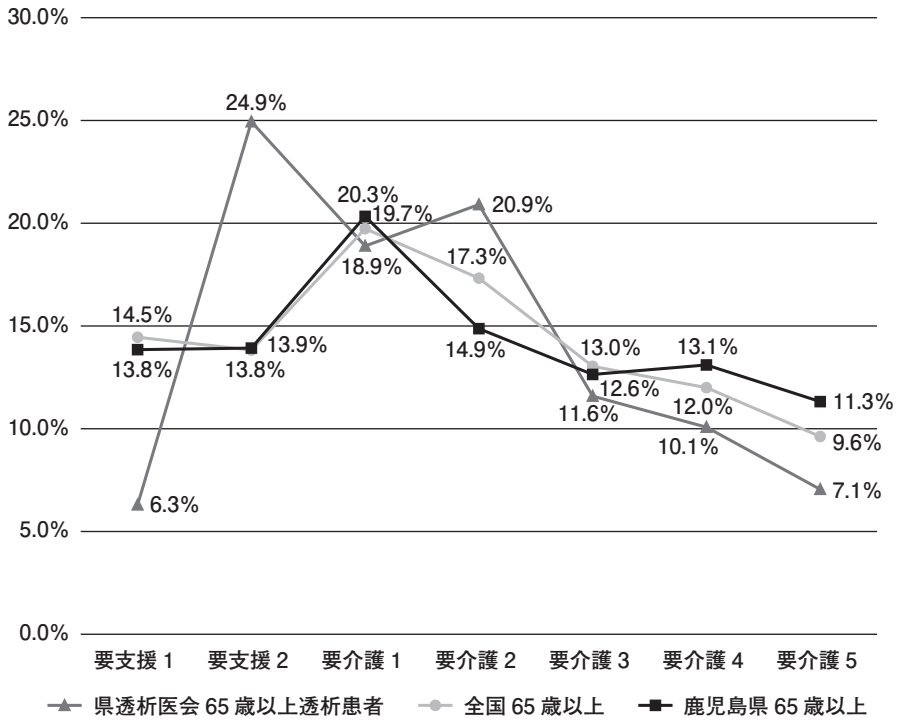

図 2　要介護認定率の比較（全国・鹿児島県・当調査）

表 8　透析歴別要介護認定率（65 歳以上）

	人　数	男　性	女　性	認定数	認定率	平均透析歴	平均年齢
2 年未満	235	144	91	82	34.9%	1 年 1 カ月	77.2
2～5 年未満	344	208	136	104	30.2%	3 年 4 カ月	76.0
5～10 年未満	303	177	126	100	33.0%	7 年 0 カ月	75.9
10～15 年未満	158	87	71	48	30.4%	12 年 2 カ月	74.8
15～20 年未満	89	51	38	19	21.3%	17 年 4 カ月	73.3
20～25 年未満	78	35	43	23	29.5%	22 年 2 カ月	74.2
25～30 年未満	59	34	25	15	25.4%	26 年 9 カ月	73.3
30 年以上	30	15	15	6	20.0%	34 年 2 カ月	70.1
合　計	1,296	751	545	397	30.6%	8 年 9 カ月	75.5

表 9　透析歴別要介護認定率（75 歳以上）

	人　数	男　性	女　性	認定数	認定率	平均透析歴	平均年齢
2 年未満	138	74	64	62	44.9%	1 年 0 カ月	82.4
2～5 年未満	184	99	85	78	42.4%	3 年 4 カ月	82.0
5～10 年未満	162	75	87	77	47.5%	7 年 2 カ月	81.7
10～15 年未満	76	37	39	32	42.1%	12 年 1 カ月	81.6
15～20 年未満	36	18	18	13	36.1%	17 年 10 カ月	79.9
20～25 年未満	32	16	16	15	46.9%	22 年 3 カ月	80.5
25～30 年未満	25	17	8	13	52.0%	26 年 7 カ月	80.6
30 年以上	5	1	4	3	60.0%	35 年 5 カ月	77.2
合　計	658	337	321	293	44.5%	7 年 7 カ月	81.7

いが見られた．

(2)　透析歴別要介護認定率

透析歴別要介護認定率では，「65 歳以上」（表 8）と「75 歳以上」（表 9）に分けて集計した．

「65 歳以上」において，要介護認定率が最も高かったのは，透析歴が 2 年未満の人で，235 名の内 82 名（34.9%）が認定を受けていた．透析歴別では，2～5

年未満の人々が最も多く 344 名であり，そのうち要介護認定者は 104 名で要介護認定率は 30.2% であった．透析歴が 15 年以上となると人数は急に減り，全体 1,296 名の 19.8%，256 名であった．その 256 名の要介護認定率は 24.6% であり，透析歴 15 年未満（1,040 名）の要介護認定率 32.1% より大幅に低かった．

「75 歳以上」でも透析歴は 2〜5 年未満の人が最も多く，75 歳以上 658 名中 184 名で，そのうち 78 名が要介護認定者で要介護認定率は 42.4% であった．透析歴 10 年以上となると人数が急に減り，75 歳以上 658 名中 174 名が透析歴 10 年以上であった．そのうち 76 名が要介護認定者で，要介護認定率は 43.7% であった．透析歴 25 年以上が 30 名であり，このうち 16 名が要介護認定者であることから，認定率は 53.3 % であった．透析歴 2 年未満〜25 年未満で要介護認定率が最も高かった透析歴群は 5〜10 年未満で，162 名中 77 名，47.5% であった．

（3）　世帯類別要介護認定率と要介護度

対象者 1,296 名の居住状況を調査したところ（表 10），1,080 名（83.3%）が自宅で生活をしていた．世帯類別要介護認定率をみると，独居世帯と，若年者と同居の世帯でそれぞれ要介護認定率が 31.6% と 30.1% と高く，高齢者のみの世帯は 498 名中 103 名の要介護認定者で，要介護認定率は 20.7% であった．65 歳未満の若年者との同居で要介護認定率が高いのは，同居者が日中仕事等で外出することから生じる「日中独居」が関連していると考えられる．当然だが，特養・老健入所者の要介護認定率は 100% であった．

世帯類別介護度では（表 11），28 名いる要介護 5 の人のうち 14 名が自宅で生活していることに注目したい．

2-3　通院状況

（1）　要介護度別通院状況

対象高齢透析患者 1,296 名の通院状況は（表 12），39% にあたる 506 名が施設送迎を利用していた．独力通院が 410 名（31.6%），介護タクシーでの通院が 32 名（2.5%），家族による送迎での通院が 151 名（11.7 %）であった．

要介護認定者で独力通院をしているのは 25 名と，要介護認定者 397 名の 6.3% にとどまり，施設送迎を利用する要介護認定者は 198 名と全要介護認定者 397 名の 49.9% を占めた．介護タクシーの利用については，32 名の内 26 名が「要介護 1」以上であり，その 26 名の人については，介護保険サービスにおいての

表 10　世帯類別要介護認定率

	人　数	男　性	女　性	平均年齢（歳）	平均透析歴	介護保険		介護サービス	
						認定者数	認定率	利用者数	利用率
長期入院	150	70	80	79.6	8 年 11 カ月	63	42.0%	—	—
独居世帯	196	101	95	74.7	8 年 10 カ月	62	31.6%	51	82.3%
高齢者のみの世帯	498	347	151	74.5	8 年 8 カ月	103	20.7%	74	71.8%
65 歳未満と同居	386	206	180	74.8	8 年 11 カ月	116	30.1%	80	69.0%
特養・老健	19	6	13	78.2	7 年 6 カ月	19	100.0%	19	100.0%
その他施設	47	21	26	81.1	6 年 11 カ月	34	72.3%	34	100.0%
合　計	1,296	751	545	75.5	8 年 9 カ月	397	30.6%	258	65.0%

表 11　世帯類別要介護度

	要支援 1		要支援 2		要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
長期入院	1	4.0%	6	6.2%	9	11.8%	17	20.2%	10	21.3%	11	27.5%	9	32.1%
独居世帯	5	20.0%	24	24.7%	13	17.1%	13	15.5%	3	6.4%	3	7.5%	1	3.6%
高齢者のみの世帯	10	40.0%	32	33.0%	24	31.6%	13	15.5%	11	23.4%	7	17.5%	6	21.4%
65 歳未満と同居	9	36.0%	31	32.0%	24	31.6%	25	29.8%	12	25.5%	8	20.0%	7	25.0%
特養・老健	0	0.0%	0	0.0%	3	3.9%	3	3.6%	6	12.8%	4	10.0%	3	10.7%
その他施設	0	0.0%	4	4.1%	3	3.9%	13	15.5%	5	10.6%	7	17.5%	2	7.1%
合　計	25	6.3%	97	24.4%	76	19.1%	84	21.2%	47	11.8%	40	10.1%	28	7.1%

表 12　要介護度別通院状況

	人数	独力通院	隣接施設から介助	家族送迎	施設送迎	介護タクシー	入院中	平均年齢	平均透析歴
未認定	899	385 (42.8)	0 (0.0)	98 (10.9)	308 (34.3)	1 (0.1)	107 (11.9)	73.5	9 年 0 カ月
要支援 1	25	4 (16.0)	0 (0.0)	4 (16.0)	14 (56.0)	2 (8.0)	1 (4.0)	78.9	6 年 11 カ月
要支援 2	97	10 (10.3)	0 (0.0)	15 (15.5)	59 (60.8)	3 (3.1)	10 (10.3)	80.3	7 年 7 カ月
要介護 1	76	6 (7.9)	1 (1.3)	10 (13.2)	41 (53.9)	4 (5.3)	14 (18.4)	78.2	9 年 6 カ月
要介護 2	84	4 (4.8)	3 (3.6)	11 (13.1)	36 (42.9)	9 (10.7)	21 (25.0)	82.2	8 年 9 カ月
要介護 3	47	1 (2.1)	2 (4.3)	5 (10.6)	22 (46.8)	4 (8.5)	13 (27.7)	80.6	6 年 7 カ月
要介護 4	40	0 (0.0)	1 (2.5)	4 (10.0)	17 (42.5)	5 (12.5)	13 (32.5)	80.7	6 年 10 カ月
要介護 5	28	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (14.3)	9 (32.1)	4 (14.3)	11 (39.3)	80.0	8 年 0 カ月
合　計	1,296	410 (31.6)	7 (0.5)	151 (11.7)	506 (39.0)	32 (2.5)	190 (14.7)	75.5	8 年 9 カ月

（　）内の数値は比率（%）

表 13　年齢別通院状況

	人数	独力通院	隣接施設から介助	家族送迎	施設送迎	介護タクシー	入院中	平均年齢	平均透析歴
65～70 歳未満	352	197 (56.0)	0 (0.0)	34 (9.7)	102 (29.0)	1 (0.3)	18 (5.1)	66.8	10 年 4 カ月
70～75 歳未満	286	111 (38.8)	1 (0.3)	35 (12.2)	97 (33.9)	8 (2.8)	34 (11.9)	72.0	9 年 5 カ月
75～80 歳未満	257	71 (27.6)	1 (0.4)	36 (14.0)	107 (41.6)	3 (1.2)	39 (15.2)	77.0	8 年 5 カ月
80～85 歳未満	219	25 (11.4)	2 (0.9)	23 (10.5)	114 (52.1)	12 (5.5)	43 (19.6)	81.9	7 年 7 カ月
85～90 歳未満	137	6 (4.4)	2 (1.5)	16 (11.7)	67 (48.9)	6 (4.4)	40 (29.2)	86.8	6 年 11 カ月
90 歳以上	45	0 (0.0)	1 (2.2)	7 (15.6)	19 (42.2)	2 (4.4)	16 (35.6)	92.1	4 年 9 カ月

（　）内の数値は比率（%）

表 14　透析歴別通院状況

	人数	独力通院	隣接施設から介助	家族送迎	施設送迎	介護タクシー	入院中	平均年齢	平均透析歴
2 年未満	235	64 (27.2)	2 (0.9)	28 (11.9)	97 (41.3)	4 (1.7)	40 (17.0)	77.2	1 年 1 カ月
2～5 年未満	344	102 (29.7)	4 (1.2)	53 (15.4)	127 (36.9)	13 (3.8)	45 (13.1)	76.0	3 年 4 カ月
5～10 年未満	303	94 (31.0)	1 (0.3)	32 (10.6)	131 (43.2)	7 (2.3)	38 (12.5)	75.9	7 年 0 カ月
10～15 年未満	158	50 (31.6)	0 (0.0)	17 (10.8)	56 (35.4)	6 (3.8)	29 (18.4)	74.8	12 年 2 カ月
15～20 年未満	89	38 (42.7)	0 (0.0)	8 (9.0)	28 (31.5)	0 (0.0)	15 (16.9)	73.3	17 年 4 カ月
20～25 年未満	78	28 (35.9)	0 (0.0)	8 (10.3)	35 (44.9)	0 (0.0)	7 (9.0)	74.2	22 年 2 カ月
25～30 年未満	59	20 (33.9)	0 (0.0)	3 (5.1)	25 (42.4)	0 (0.0)	11 (18.6)	73.3	26 年 9 カ月
30 年以上	30	14 (46.7)	0 (0.0)	2 (6.7)	7 (23.3)	2 (6.7)	5 (16.7)	70.1	34 年 2 カ月

（　）内の数値は比率（%）

利用が「要介護1」以上に限られる「福祉有償運送」での通院が窺えた．他の6名は，自費利用の介護タクシーか，障害サービスの「福祉有償運送」利用が考えられた．

(2)　年齢別通院状況（表13）

独力通院は，65〜70歳未満では352名のうち197名（56%）であった．70〜75歳未満，75〜80歳未満と高齢になるにつれて独力通院は減少する傾向にあった．家族送迎は，75〜80歳未満は36名で人数が最多であったが，各階層の割合は目立った差はなかった．施設送迎は，65〜70歳未満が29%と最も利用率が低く，75歳以上の後期高齢者になると，利用率が高くなる傾向にあった．

(3)　透析歴別通院状況（表14）

独力通院は透析歴30年以上の人の率が高く，30名中14名で46.7%であった．家族送迎は透析導入後2〜5年未満で53名（15.4%）で，施設送迎は各階層での利用率に大きな差はなかった．

2-4　性別による比較

今回の調査では，男性751名，女性545名と男性が多かったが（表15），要介護認定者は男性175名，女性222名と人数は逆転し，要介護認定率は男性23.3%，女性40.7%と大きな差があった．要介護度別で男女差がはっきりしていたのは要介護4（日常生活における動作や行動，また身だしなみや部屋の片づけなどといった身の回りの世話が自分一人ではできない状態）で，女性が男性の3倍近い人数であった．

平均透析歴は，男性より女性のほうが1年ほど長かった（表16）．女性は男性に比べて長期入院や施設入居者が多く，独居世帯では男女差が少なかった．通院方法では，独力通院の410名のうち318名（77.6%）が男性だった．その他の通院方法では男女差はみられなかった．

2-5　高齢透析患者の介護サービス利用状況

(1)「全対象患者」介護サービス利用状況（表17）

対象高齢透析患者1,296名のうち，397名が要介護認定を受けていた．このうち139名は介護サービスを利用していなかった．各項目での利用率は，訪問サービス（訪問介護，訪問看護，居宅療養管理指導，訪問リハビリテーション）で23.4%，通所サービス（通所介護，通所リハビリテーション）で30.5%，その他（ショートステイ，福祉用具貸与，入居施設でのサービス等）35.0%であった．

(2)　性別介護サービス利用状況（表17）

訪問サービスでは男性のほうが女性より利用率が高く，通所サービス利用では男性より女性のほうが高かった．その他のサービスにおいては大きな差はみられ

表15　性別による比較（人数・年齢・要介護度）

	人数	平均年齢	介護保険 認定者数	介護保険 認定率†1（%）	認定者平均年齢	介護サービス 利用者数	介護サービス 利用率†2（%）	要介護度 要支援1	要介護度 要支援2	要介護度 要介護1	要介護度 要介護2	要介護度 要介護3	要介護度 要介護4	要介護度 要介護5
男性	751	74.3	175	23.3	78.9	113	64.6	11 (6.3)†2	48 (27.4)	36 (20.6)	34 (19.4)	20 (11.4)	11 (6.3)	15 (8.6)
女性	545	77.2	222	40.7	80.7	145	65.3	14 (6.3)	49 (22.1)	40 (18.0)	50 (22.5)	27 (12.2)	29 (13.1)	13 (5.9)
合計	1,296	75.5	397	30.6	80.0	258	65.0	25 (6.3)	97 (24.4)	76 (19.1)	84 (21.2)	47 (11.8)	40 (10.1)	28 (7.1)

†1　男性・女性の調査人数に対する比率（%）
†2　介護保険認定者数に対する比率（%）

表16　性別による比較（腹膜透析・透析歴・居住環境・通院方法）

	人数	腹膜透析人数	平均透析歴	居住環境 長期入院中	居住環境 施設（特・老・他）	居住環境 独居世帯	通院方法 独力通院	通院方法 家族送迎	通院方法 施設（機関）送迎	通院方法 介護タクシー
男性	751	16	8年3カ月	70 (9.3)	27 (3.6)	101 (13.4)	318 (42.3)	71 (9.5)	255 (34.0)	16 (2.1)
女性	545	8	9年4カ月	80 (14.7)	39 (7.2)	95 (17.4)	92 (16.9)	80 (14.7)	251 (46.1)	16 (2.9)
合計	1,296	24	8年9カ月	150 (11.6)	66 (5.1)	196 (15.1)	410 (31.6)	151 (11.7)	506 (39.0)	32 (2.5)

（　）内は男性・女性の調査人数に対する比率（%）

表 17　高齢透析患者の介護サービス利用状況

	要介護認定者	認定者だが利用なし	利用介護サービス					
			訪問サービス		通所サービス		その他	
全対象患者	397	139	(35.0)	93	(23.4)	121	(30.5)	139	(35.0)
性別								
男性	175	62		48	(27.4)	49	(28.0)	60	(34.3)
女性	222	77		45	(20.3)	72	(32.4)	79	(35.6)
介護度別								
要支援 1 と 2	122	46		27	(22.1)	31	(25.4)	30	(24.6)
要介護 1 と 2	160	53		34	(21.3)	53	(33.1)	56	(35.0)
要介護 3～5	115	40		32	(27.8)	37	(32.2)	53	(46.1)
世帯類別								
独居	62	11		27	(43.5)	21	(33.9)	21	(33.9)
高齢者世帯	103	29		33	(32.0)	40	(38.8)	31	(30.1)
若年者と同居	116	36		25	(21.6)	45	(38.8)	43	(37.1)
特養・老健	19	0		0	(0.0)	0	(0.0)	19	(100.0)
その他施設	34	0		8	(23.5)	15	(44.1)	25	(73.5)
年齢別								
前期高齢者	104	31		25	(24.0)	27	(26.0)	44	(42.3)
後期高齢者	293	108		68	(23.2)	94	(32.1)	95	(32.4)
85 歳以上	121	38		20	(16.5)	44	(36.4)	51	(42.1)
透析歴別								
5 年未満	187	64		43	(23.0)	58	(31.0)	65	(34.8)
5～10 年未満	99	31		25	(25.3)	29	(29.3)	40	(40.4)
10～15 年未満	48	18		12	(25.0)	12	(25.0)	18	(37.5)
15～20 年未満	19	9		6	(31.6)	6	(31.6)	3	(15.8)
20 年以上	44	17		7	(15.9)	16	(36.4)	13	(29.5)

〈　〉内は比率（%）

なかった．全体のサービス利用率は男性 64.6%，女性 65.3% であった．

(3)　介護度別（表 17）

要支援，要介護軽度，要介護重度と分けて比較すると，通所サービス，その他サービスは重度になるほど利用率が高くなっていた．訪問サービスの利用率は，介護度別で大きな差はなかった．

(4)　世帯類別介護サービス利用状況（表 17）

若年者と同居では，通所サービスとその他サービスが高く，独居は訪問サービスの利用率が高かった．高齢者世帯では，通所サービスの利用率が比較的高かった．

(5)　年齢別（表 17）

前期高齢者と後期高齢者と比較すると，前期高齢者の要介護認定率は 638 名中 104 名で 16.3%．後期高齢者は 658 名中 293 名で 44.5% と高率だった．いずれの介護サービスについても，各階層での利用率に大きな差は見られなかった．

(6)　透析歴別（表 17）

訪問サービス，通所サービスともに階層別に目立った差はなかったが，その他サービスの利用率は，15～20 年未満の群で極端に少なかった．

2-6　地域比較

調査参加機関の所在する地域を図 3 のように区分けし，比較した（表 18, 19-1, 19-2）．

「平均透析歴」をみると，「鹿児島市」と「姶良・伊佐・大隅」とは同水準で 7 年 4 カ月，「薩摩」は 12 年 3 カ月と他地区と大きな差があった．「透析導入原因疾患」をみると，鹿児島市は「糖尿病性腎症」が 43.0 % と高率で，他 2 地区は「糖尿病性腎症」と「慢性糸球体腎炎」が同水準であった．

その他の項目は 3 地区とも相似した比率であった．

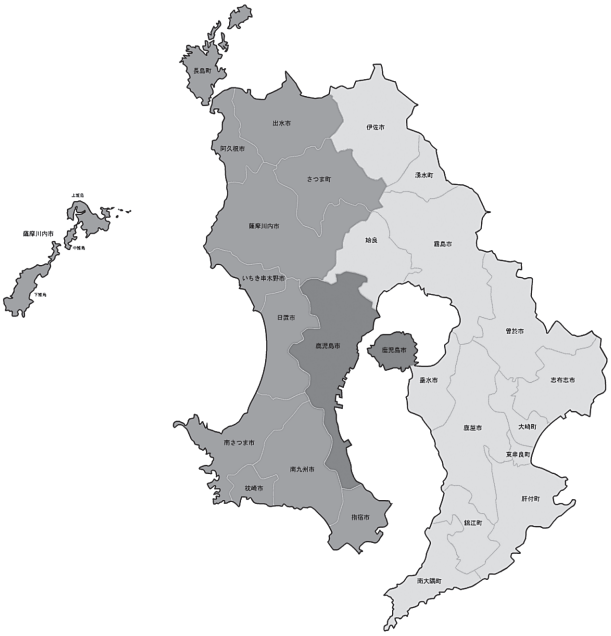

図 3　調査参加機関所在地の区分け

表 18　地域比較 1

	参加機関	対象者数			平均透析歴	平均年齢	透析導入原因			長期入院	世帯類別			
		全体	男	女			糖尿病性腎症	慢性糸球体腎炎	腎硬化症		独居	高齢	若年同居	施設
鹿児島市	11	474	272 (57.4)	202 (42.6)	7 年 4 カ月	75.5	204 (43.0)	60 (12.7)	38 (8.0)	43 (9.1)	68 (14.3)	186 (39.2)	160 (33.8)	17 (3.6)
薩　摩	8	374	235 (62.8)	139 (37.2)	12 年 3 カ月	75.2	149 (39.8)	154 (41.2)	35 (9.4)	47 (12.6)	57 (15.2)	158 (42.2)	102 (27.3)	10 (2.7)
姶良・伊佐・大隅	10	448	244 (54.5)	204 (45.5)	7 年 4 カ月	75.7	159 (35.5)	158 (35.3)	53 (11.8)	60 (13.4)	71 (15.8)	154 (34.4)	124 (27.7)	39 (8.7)

（　）内は各区域の対象者数に対する比率（%）

表 19-1　地域比較 2

	対象者数	介護サービス		通院方法				
		認定者数	利用者数	独　力	隣　接	家　族	機関による送迎	介護タクシー
鹿児島市	474	179 (37.8)	118 (65.9)	147 (31.0)	5 (1.1)	57 (12.0)	178 (37.6)	28 (5.9)
薩　摩	374	99 (26.5)	68 (68.7)	129 (34.5)	0 (0.0)	39 (10.4)	145 (38.8)	3 (0.8)
姶良・伊佐・大隅	448	119 (26.6)	72 (60.5)	134 (29.9)	2 (0.4)	55 (12.3)	183 (40.8)	1 (0.2)

（　）内は対象者数に対する比率（%）

表 19-2　地域比較 3

	認定者数	要介護度別患者数						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
鹿児島市	179	8 (4.5)	40 (22.3)	44 (24.6)	37 (20.7)	23 (12.8)	16 (8.9)	11 (6.1)
薩　摩	99	9 (9.1)	31 (31.3)	15 (15.2)	22 (22.2)	12 (12.1)	7 (7.1)	3 (3.0)
姶良・伊佐・大隅	119	8 (6.7)	26 (21.8)	17 (14.3)	25 (21.0)	12 (10.1)	17 (14.3)	14 (11.8)

（　）内は認定者数に対する比率（%）

表 20-1　介護施設入居者の状況

入居者総数	うち腹膜透析	男性	女性	平均年齢	平均透析歴	介護保険		要介護度別							居住・生活環境	
						認定数	認定率	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	特養老健	その他施設
66	2	27	39	80.2	7年1カ月	53	80.3%	0	4	6	16	11	11	5	19 (28.8)	47 (71.2)

（　）内は総数に対する比率

表 20-2　通院方法

	独力通院	隣接施設から介助	家族送迎	施設送迎	介護タクシー	短期入院中	計
人数	5	5	1	47	4	4	66
比率（%）	7.6	7.6	1.5	71.2	6.1	6.0	100

2-7　施設入居者の状況

施設入居中の人が 66 名あり（短期入院中 4 名含む）（表 20-1），腹膜透析実施中の人が 2 名含まれている．その内訳は，特養・老健が 19 名，その他施設が 47 名であった．要介護認定率が 80.3% で，要介護認定をうけていない人が 13 名であり，介護サービスが必要ない人で，なんらかの施設に入居している人もあった．通院方法は（表 20-2），施設送迎を 47 名が利用していた．他は独力通院が 5 名，隣接施設から介助で通院の人が 5 名，介護タクシー 4 名，家族送迎 1 名だった．

2-8　独居世帯高齢透析患者の状況

対象者の中には独居が 196 名あり（短期入院中 8 名含む）（表 21-1），男性が 101 名（男性全体で 13.4%）で，女性が 95 名（女性全体で 17.4%）であった．要介護認定率は 31.6% で，要介護度別では要介護 4 に 3 名，要介護 5 に 1 名いるところに注目したい．年齢別では（表 21-2），前期高齢者が 105 名，後期高齢者が 91 名だった．通院方法は（表 21-3），施設送迎が多く 52.6% であった．

2-9　高齢者世帯高齢透析患者の状況

498 名（短期入院中 14 名含む）中 347 名が男性（男性全体の 46.2%），151 名が女性（女性全体の 27.7%）だった（表 22-1）．要介護認定率は 20.7%．要介護認定者 103 名のうち 79 名（76.7%）が要介護 2 以下の軽度者であった．498 名の年齢階層別には大きな人数

表 21-1　独居世帯高齢透析患者の状況

独居者総数	うち入院中	うち腹膜透析	男性	女性	平均年齢	平均透析歴	介護保険		要介護度別						
							認定数	認定率	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
196	8	1	101	95	74.7	8年10カ月	62	31.6%	5	24	13	13	3	3	1

表 21-2　年齢構成

	65～70 未満	70～75 未満	75～80 未満	80 歳以上	合　計
人数	63	42	37	54	196
比率（%）	32.1	21.4	18.9	27.6	100

表 21-3　通院方法および通院先

	主な通院方法†					通院先施設形態	
	独力通院	隣接施設を介助	家族送迎	施設送迎	介護タクシー	病院	診療所
人数	69	0	8	103	8	98	98
比率（%）	35.2	0.0	4.1	52.6	4.1	50.0	50.0

†　総数 196 人のうち，入院中の 8 人は除く．

表 22-1　高齢者世帯高齢透析患者の状況

総数	うち入院中	うち腹膜透析	男性	女性	平均年齢	平均透析歴	介護保険		要介護度別						
							認定数	認定率	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
498	14	8	347	151	74.5	8 年 8 カ月	103	20.7%	10	32	24	13	11	7	6

表 22-2　年齢構成

	65～70 未満	70～75 未満	75～80 未満	80 歳以上	合　計
人数	133	135	112	118	498
比率（%）	26.7	27.1	22.5	23.7	100

表 22-3　通院方法および通院先

	主な通院方法†					通院先施設形態	
	独力通院	隣接施設を介助	家族送迎	施設送迎	介護タクシー	病院	診療所
人数	208	1	68	196	11	207	291
比率（%）	41.8	0.2	13.7	39.4	2.2	41.6	58.4

†　総数 498 人のうち，入院中の 14 人は除く．

の差はなく（表 22-2），通院方法では独力通院が 208 名（41.8%），施設送迎が 196 名（39.4%）で目立っていた（表 22-3）．

2-10　高齢腹膜透析患者の状況

24 名（短期入院中 3 名，長期入院中 4 名含む）（表 23-1）のうち，血液透析と併用して加療している人が 6 名，要介護認定率は 24 名中 9 名で 37.5%．年齢階層別では（表 23-2），後期高齢者が 16 名と多かった．通院は独力通院 9 名，家族送迎 7 名であった（表 23-3）．

まとめ

今回の調査では，65 歳以上の高齢透析患者 1,296 名が対象であり，平均年齢は 75.5 歳だった．透析導入原因疾患は日本透析医学会より出されている「わが国の慢性透析療法の現況」にある結果と相似し，「糖尿病性腎症」による透析導入がもっとも高率で，39.5%

表 23-1　高齢腹膜透析患者の状況

総数	うち入院中	男性	女性	平均年齢	平均透析歴	介護保険		要介護度別						
						認定数	認定率	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
24	7（4）	16	8	79.2	3 年 3 カ月	9	37.5%	0	1	2	2	4	0	0

（　）内の数値は入院中 7 人のうちの長期入院者数

表 23-2　年齢構成

	65～70 未満	70～75 未満	75～80 未満	80 歳以上	合　計
人数	3	5	5	11	24
比率（%）	12.5	20.8	20.8	45.8	100

表 23-3　通院方法および通院先

	主な通院方法†					通院先施設形態	
	独力通院	隣接施設を介助	家族送迎	施設送迎	介護タクシー	病院	診療所
人数	9	0	7	1	0	24	0
比率（%）	37.5	0.0	29.2	4.2	0.0	100.0	0.0

†　総数 24 人のうち，長期入院（4 人），短期入院（3 人）は除く．

だった．

対象高齢透析患者のうち397名が要介護認定を受けており，要介護認定率は30.6%であった．1,296名のうち男性が751名（57.9%），女性が545名（42.0%）で，男性751名のうち要介護認定者は175名（認定率23.3%），女性545名のうち222名が要介護認定者（認定率40.7%）であった．

要介護認定者397名の平均介護度は要介護1.66，男性の要介護認定者の平均介護度は要介護1.55，女性は要介護1.74であった．

要介護認定者の平均年齢は79.9歳．要介護認定者男性の平均年齢は78.9歳，同じく女性は80.7歳であった．

要介護認定率30.6%というのは全国，鹿児島県，鹿児島市と比較して高く，前期高齢者，後期高齢者と分けてみても高率だった．

要介護度については，全国，鹿児島県，鹿児島市とも各要介護度に大きな差はなかったが，今回の調査では要介護認定者は要支援2～要介護2までの軽度者に集中していた．他の高齢者と比べて合併症が多い高齢透析患者に軽度者が多いのは，全身状態が悪化し，在宅復帰目的の退院支援等の介入が不必要となり，要介護認定自体を受ける必要がなくなるケースがみられることも影響している可能性がある．

透析を受けている要介護者の在宅復帰が困難となった場合に入所施設への経路形成を行うケースがあるが，透析患者の入所は主として有料老人ホーム，サービス付き高齢者向け住宅に限定されることが多く，さらに，それらの自費系施設でも透析患者の入居を受け入れるところは限定されており，要介護透析患者の療養の場を提供しにくい状況は課題となっている．

おわりに

私達は，平成28年3月31日現在における鹿児島県透析医会会員の所属する医療施設での介護関連調査を行った．透析をしていない高齢者と，今回調査対象とした高齢透析患者は，いずれにしても地域でどのように生活していくかが課題となっている．透析をしている高齢者の生活維持には，私達のように透析医療に携わる人達で協力し合い，他領域の医療介護従事者とも連携して，今回の対象者で53.4%（694名）を占める独居や高齢者のみの世帯の方々の療養環境の維持など，様々な課題に取り組んでいくべきと考える．

謝　辞

本調査を進めるにあたり，ご協力いただきました鹿児島県透析医会の役員をはじめ，本県透析医会会員の所属機関の方々，ならびに各医療施設の職員の方々に深く感謝を申し上げます．

文　献

1）日本透析医学会統計調査委員会編：図説　わが国の慢性透析療法の現況（2014年12月31日現在）．東京，（社）日本透析医学会，2015.

2）村石昭彦，隈　博政，菰田哲夫，他：福岡県における高齢透析患者の介護関連実態調査報告―2014年2月現在―．日透医誌　2015；30：108-121.

参考URL

‡1）厚生労働省「介護保険事業状況報告（暫定）」http://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/osirase/jigyo/m16/1603.html（2016/6/28）